

佳作

未来の自分へ伝えたいこと

山形県山形市立第六中学校

2年 郡司 春陽

「生きづらさを生きる」この言葉は私の心の支えです。この言葉を何で耳にしたのか覚えていませんが、とても印象に残っています。

私は、今、中学2年生です。中学校に入ったときは、学校に行きたくない日が多く、日々の生活にストレスを感じていました。学校へ行く意味が分からなくなり、勉強することが嫌になっていました。その半年後くらいにこの言葉と出会ったのです。この言葉との出会いで自分自身の考えが変わり、世の中は生きづらいことだらけだと思うようになりました。そして、嫌なことや、できないことにも挑戦しました。それからは、日々の生活にストレスを感じるものが少なくなりました。

この言葉と出会い、変わったことは、気持ちの問題だけではありません。部活動や学習面での態度も変わりました。部活が面倒だと思ったことは何度もあり、そんな日の練習は、だらけてしまうことが多かったです。なのに私は、成長しないことを悔やんでいました。楽しんで成長できるはずがないのに、今思うと、わがままで恥ずかしいです。でも、「生きづらさ＝悔しいこと」と関連付け、自分に何が足りないのかを明確にし、練習に取り組みました。その時期は部活の発表会の日に近く、いろいろ心配なことがありました。ですが、発表会が終わったとき、顧問の先生や先輩に「高い音きれいになったね。」と言われ、とても嬉しかったのを覚えています。この時、私は、壁を乗り越えて得た喜びは、「生きづらさを生きる」と同じだと思いました。成長に悩んだりした時期も、悔しいと思い、どうしたらいいかを考え、行動に移すようになりました。また、学習面では、最初に書いた通り、勉強することが嫌になりました。しっかり勉強しているのに良い点が取れず悩みました。このままではだめだと思い、勉強方法を変えたら、2年生の1学期末テストで自己最高得点を出すことができました。

そして、私がこの言葉について思うことは、どんなことでも当てはめることができるということです。人それぞれの「生きづらさ」があると思います。私は学校関連でしたが、家族や友達との関係、生きる社会の関係など、悩みはこの世の人の数ほどあると思います。

「生きづらさ」を改めて考えると、自分の理想が高く、その理想に近づこうとしないことかなとも思いました。理想だけ高いと、自分のように、成長でき

なかつたり、点数に伸び悩んだりしてしまいます。ですが、成長できない生きづらさ、点数に伸び悩む生きづらさなど、他にもたくさん「生きづらさ」がある中、その理想に近づくには、どうすれば良いかを考え、足元から自分を見直すことが大切だと思います。

今回の作文を書くにあたって、ネットで「生きづらさ」を調べてみました。すると、少し違う意味かもしれませんが、障害やいじめにより「生きづらい」と感じる人もいるのだと知りました。そういう人たちは、自分が変わるのではなく、周りの人が変わらないといけないのだと思います。

このようなことから、私は、「生きづらさ」には、自分自身が変わって解決するものと、周りの人が変わらないと解決しない問題があると思いました。「生きづらさを生きる」は、自分自身が変わらないといけないことは、なんでも当てはまるかもしれませんが、周りの人が関わってくると当てはまらないこともあると思います。そして、今日、8月3日をきっかけに、将来「生きづらい」と感じている人の少しでも役に立ちたいと思いました。自分の心の支えの言葉が、誰かの心に残ってくれると嬉しいです。

10年後、50年後、100年後の自分へ。今、私は「生きづらさ」について考えています。それぞれ、生きづらいですか。生きづらくていいです。ぜひ、その生きづらさを生きてください。どうしたら、生きやすくなるか、考えてください。そして、周りの人に「生きづらさ」を感じている人がいたら、手をさし伸べて、一人でも多くの人を生かしてほしいです。ストレスや疲れがあったら、無理せず、自分の足元を見直し、今も未来も、どんどん成長していきましょう。

「生きづらさを生きる」を心の支えにし、頑張ります。また、未来の自分に悔いがないよう、どうしたら良いかを考え、生きていきます。